（2ページから↙）

い。障がいのある人の雇用について、水増し問題のその後を教えてほしい。

◆執行部答弁

宮本修作・書記長
えがおランチ、取材をいかせる。

山本昌代・女性対策部長
家庭の男女差別は厳しい。そのことは男性もしんどくさせている。和歌山市小学校の校長は女性ゼロ。女性の先生は、試験を受けない、女性はパニックになって対応できないと担当者から回答された。試験に応募できない状況をしっかりかんがえてほしい。

平見良太・
生活福祉運動部長
NPOを支援するため、昨年学習会をした。国の社会保障制度が変わるなか、「我が事丸ごと」という事業について学習した。NPO湯浅の事業を見学して学んでいきたい。また、国のメニューを精査して計画を立てていけるよう、再度、7月中旬に「我が事丸ごと」を活用した具体的なメニューを学習会する。

松井辰也・
労働政策運動部長
新宮・湯浅の就労について。行政から50件を超える募集はあるが、内容は臨時・期限付きばかりで正規募集は少ない。20件ほどは大学卒や資格が必要など、部落の雇用につながらない。部落の雇用につながらない求人をもってくる県の姿勢を正しながら各支部に案内を出している状況。各支部で詳細な状況をもちよっていただき、交渉につなげていく。

速水雅樹・青年対策部長
青年部の育成について。数年前の各支部オルグで、各課題がみえてきた。これまで次世代を担う青年をどう引っ張ってくるかを話し合ってきた。青年の掘りおこしは、各支部でとりくみをすすめてもらい、県連青年部に青年を送ってほしい。

宮本修作・書記長
青年代表と県と個別交渉を実施しているが、就労につながらない。大阪のフードバンクなど、活用できる施策を検討していく。
条例について、法律を上回ることができないなどの制約があるが、差別をなくすための条例を個々でアドバイスをしていきたい。

平見良太・
生活福祉運動部長
「障害者差別解消法」が施行されて3年。法定雇用の水増し問題について、再募集がかけられている。今後も県と話し合いをすすめていく。

全高全青にむけ

全高全青活動者会議

全国高校生・青年活動者会議を5月18日～19日、マイステイズ鹿児島天文館でおこなわれ、13府県から49人が参加した。

主催者を代表して吉岡正博・中央執行委員から8月に開催する第51回全国高校生集会・第63回全国青年集会の成功にむけ、各都府県から青年がおかれている状況などを報告いただき、全高・全青につなげたいとあいさつした。

地元の県連青年部から「法」失効後、同盟員が減少し、少子高齢化かで運動に参加できない青年が増えていった。地域離れや若者の地域外流出など歯止めがきかない状況」のほか、「部落の青年のネットワークづくりや各地域での学習会の開催などの活動をつづけている」と活動報告があった。

活動報告終了後、高校生・青年に分かれて協議した。

最後に、安田茂樹・中央執行委員から「どの地域も青年が減ってきているが、なぜ解放運動をしているのかをしっかり考え、この全校・全青をきっかけに差別から学び、仲間との絆を深め、より多くの高校生・青年が参加してがんばっていただきたい」とあいさつし、活動者会議が終了した。

分かれての討論では活発な意見がだされた

狭山の分科会で、司会・報告

第64回全国女性集会

部落解放第64回全国女性集会が5月11、12日徳島市あわぎんホールを主会場にひらかれ、和歌山県連から43人が参加した。

解放歌の流れるなか、北内ますみ・女性対策部副部長と竹中多恵子・対策部員が荊冠旗とともに入場した。

主催者代表あいさつで組坂繁之・中央執行委員長は「部落差別解消推進法」が施行され3年目を迎えた。条例の制定や実態調査、相談体制や教育啓発に向け、とりくみをすすめていかなければならない。地元歓迎のあいさつで、下国保徳・徳島県連執行委員長は、徳島で全女が開催されるのは約30年ぶり、徳島県連は50周年という年に集会が開催されるのは意義があることであると語った。飯泉嘉門・県連知事と遠藤彰良・徳島市長の来賓あいさつのあと、石川一雄さん早智子さんが、狭山第三次再審請求に向け支援を訴えた。活動報告を植村あけみ・中央女性運動部副部長がおこない、つづいて基調提案を山崎鈴子・中央女性運動部長がおこなった。記念講演は「徳島県教祖種劇事件―ヘイトクライムとの闘い―」と題し、徳島県教職員組合の冨田真由美さんが、2010年の在特会等による徳島県教祖襲撃について、自ら闘った裁判闘争について語った。

翌日、7つの分科会で報告と意見交換がおこなわれた。和歌山からは第2分科会「狭山闘争と冤罪事件の取り組み」で山本昌代・女性対策部員が報告をし、司会を磯﨑美幸・対策部員が務めた。山本対策部長は、兄の部屋でみつけた「差別が奪った青春」という劇画で狭山事件を知り、最後のページに書かれていた「石川さんに手紙を書こう」を見て小菅刑務所にいる石川さんに手紙をだし、返事が来たことや、自分が部落出身であることを知り、鳥取で開催された奨学生集会で迷わず、狭山の分科会に参加したことを報告した。会場から、狭山と出会ったきっかけや、狭山をきっかけに、つれあいとの出会ったこと。また、各地の狭山活動が報告された。狭山市民集会で人権学習をしている名張市一ノ井児童館のとりくみなども報告された。

次回の全国女性集会は5月16、17日に熊本県で開催される。

荊冠旗入場

司会・報告をつとめた第２分科会

各支部で大会ひらく

◆各支部大会
3／30伏原、4／16名古曽、4／25御坊、4／25鳴神、4／26橋本、5／24新宮、5／25善明寺・古和田、5／28湯浅、6／15笠田東、6／22田辺、6／27本渡、6／28山口、7／6杭ノ瀬・平井、7／30芦原、8／23那賀、9／3岩橋

◆女性部大会
4／25鳴神、4／28平井、5／25善明寺、6／20那賀、6／28新宮、7／21古和田、8／23笠田東

◆青年部大会
4／26那賀、6／8湯浅

文化の窓

「走れ、ヒョンジン！」

著者:朴美景、訳:蓮池薫
出版社:ランダムハウス講談社
発行:2005年7月13日、ISBN978-4-270-00087-2

自閉症と診断された少年がマラソンランナーに、さらにはトライアスロン選手にまで成長する姿が描かれた一冊。少年の後ろには必ず母親の姿がある。こだわりや執着心の強い自閉症児の将来を考え、自立させるために尽力するが、社会の障がい者へのまなざしは、厳しい。しかし、母子はチャレンジしつづける…。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073－473－2301